

保証書

型式	エアコンプレッサー SW-202 SW-L35LPF-01	お買上げ日 年 月 日	保証期間 1 年 (業務使用時は6ヶ月)
お客様	ご住所：〒 お名前： 電 話： - -		
販売店	ご住所：〒 お名前： 電 話： - - 印		

太線枠内に記入がない場合、またはそれに代わる資料の添付がない場合は、無効となりますので必ずご確認ください。

保証期間内に取扱説明書等の注意書きにしたがって正常な使用状態で使用していて故障した場合には、お買上げの販売店に本書をご提示の上、点検、修理をご依頼ください。

保証期間中でも下記の場合には有料修理となります。

- ・使用上の誤り及び不当な修理や改造による故障及び損傷。
- ・お買上げ後の落下、運送等による事故及び損傷。
- ・火災・地震・落雷・その他天災地変・公害・煤煙・薬品・鳥ふん・塩害・異常電圧などによる故障及び損傷。
- ・車両・船舶などに搭載された場合の故障及び損傷。
- ・消耗部品・磨耗部品の交換、修理。
- ・保証書のご提示がない場合。
- ・保証書にお買上げ年月日・お客様名・販売店名の記入がないか、それに代わる資料の提示がない場合、または、字句を書き換えられた場合。
- ・この保証書は日本国内においてのみ有効です。

THIS WARRANTY IS VALID ONLY IN JAPAN.

本書は再発行いたしませんので大切に保存してください。

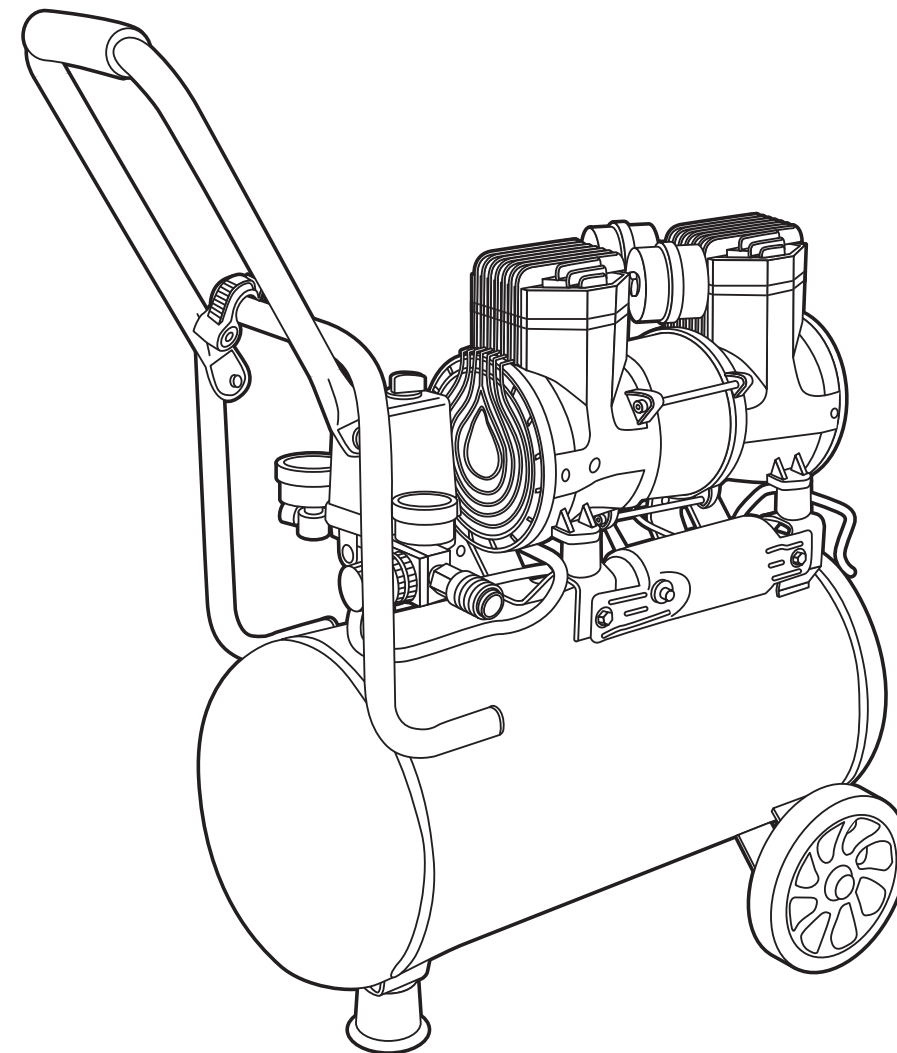
総発売元
 藤原産業株式会社

情報サービスセンター
〒673-0433 兵庫県三木市福井2115-1
TEL 0794-86-8200(代表) FAX 0794-83-5160



取扱説明書

エアコンプレッサー-SW-202 SW-L35LPF-01



- この度は、**SK11** 商品をお買上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前に **必ず本書をお読み** いただき、正しい使用方法を理解してください。
誤った使用方法是、事故や故障の原因となります。
- 取扱説明書は大切に保存し、必要な時にお読みください。

エアコンプレッサーSW-202
SW-L35LPF-01 取扱説明書

目次

1.製品仕様 ----- 1
2.安全上のご注意 ----- 2～3
3.その他のご注意 ----- 3～4
4.各部のなまえ ----- 5
5.ご使用方法 ----- 6～9
6.保守・点検 ----- 9～10
7.故障かな?と思ったら ----- 11

1.製品仕様

(注:0.1MPa ≒1気圧≒1kgf/cm²)

商品名	SK11 エアコンプレッサー SW-202		備考
型式	SW-L35LPF-01		
電動機サイズ	1.5kW		
本体寸法	約 長さ615 × 幅354 × 高さ717 mm		
本体乾燥質量	約26kg		
空気圧縮方式	レシプロ式(往復動ピストン方式)		
定格電圧(50/60Hz)	AC100V		
負荷軽減機構	モーター停止時：吐出管減圧電磁弁式		次回始動準備用
周波数	50Hz	60Hz	
モーター回転速度	1430min ⁻¹	1700min ⁻¹	
消費電流	11.6A	12.9A	(連続運転時)
消費電力	1060W	1280W	(連続運転時)
吐出空気量 ※1	135L/min	150L/min	(0MPa時)
	105L/min	120L/min	(0.45MPa時)
	90L/min	100L/min	(0.6MPa時)
	70L/min	80L/min	(最高圧力時)
最高圧力	0.8MPa		
圧力制御範囲	約0.6MPa～約0.8MPa		
タンク容量	35L		
定格時間	連続		
騒音レベル[dB(A)/1.5m]	67dB	69dB	
製造地	中国		

※1 空気吐出量は表記圧力時に吐出する空気量を吸込み状態(標準大気圧、20℃)に換算した値です。
注:本製品の仕様や品質は性能向上のため予告なく変更することがあります。また、仕様は参考値を含みます。

2.安全上のご注意

■この取扱説明書及び本体に貼り付けたラベルには、安全に関する重要な注意事項を、⚠警告、⚠注意のマークを使用して表現しています。製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものですので、必ず守ってください。

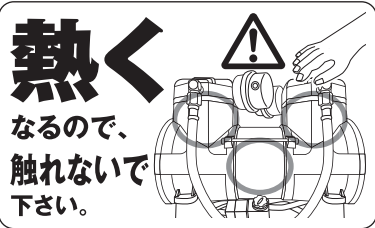
⚠警告と ⚠注意の意味は次の通りです。

⚠警告	取り扱いを誤った場合、死亡や重傷などの重大な結果または傷害に結び付く可能性があります。
⚠注意	取り扱いを誤った場合、製品の故障や家屋・家具などの物的損害に結び付く可能性があります。

エアコンプレッサーのご使用上の注意

⚠警告

- ご使用前に必ず取扱説明書をお読みください。
- 本製品の圧縮空気は人体や動物の送気用には絶対にご使用にならないでください。
- 使用中の作業場所には関係者以外は近づけないでください。特にお子様にはご注意ください。
- 揮発性可燃物(ガソリン・シンナー等)や可燃性ガスのある場所では絶対にご使用にならないでください。爆発や発火の危険性があります。
- 一重絶縁構造です。漏電または感電事故防止のため、適切に接地(アース)してご使用ください。アースの設置等は電気工事士にご相談ください。
- 感電防止用漏電遮断器の設置された電源でご使用ください。
- 分解や改造は絶対にしないでください。
- 雨中や水のかかる場所または湿気の多いところでは絶対にご使用にならないでください。
- 炎天下など高温になる場所でご使用にならないでください。
- 電源はAC100Vです。15A以上のコンセント・20A以上のブレーカーが設置されている電源を使用してください。
- 移動時・作業終了時は必ず電源をお切りください。そして、ドレンコックを徐々にゆるめ、エアタンク内のドレンと圧縮空気を排出し、電源プラグはコンセントから抜いてください。
- 作業環境に応じた服装で作業してください。(安全メガネ・耳栓・安全靴・作業着・ヘルメット・安全靴など)
- 使用前に本製品及び使用機器の点検を行ってください。万が一、異常がある場合は絶対にご使用にならないでください。
- ボルトやナットが緩んでいたり、亀裂や破損がみられた場合は絶対に使用しないでください。
- 直流電源では絶対に使用しないでください。
- エンジン発電機では電気容量や機種によってはご使用になれない場合がございます。場合によっては故障の原因になりますので販売店にご相談ください。
- 固く水平な場所に設置してください。
- ごみやほこりの多いところに設置して使用しないでください。
- 衝撃や人為的な曲げを与えないでください。
- 濡れた手で絶対に触れないでください。
- 電源コードを引っ張るなど乱暴に扱わないでください。
- 吸気口、排気口やファン及び回転部に異物を入れないでください。
- ぶつかけたり落下させるなど乱暴に取り扱わないでください。
- 吸気口、排気口をふさいだり、小さな囲いの中や箱の中で使用せず、風通しのいいところでご使用ください。
- 上に乗ったり、物を乗せたりしないでください。
- 運転中は非常に高温になる部分がございます。素手で触らないでください。
- 運転中に異常を感じたら中断し使用しないでください。



⚠ 注 意

■このコンプレッサーは、壁などから30cm以上離してください。また、コンプレッサーの**放熱を妨げるような覆いやダンボールを被せたり、吸気口、排気口をふさいだ状態**で運転しないでください。空気冷却式ですから風通しが悪いと過熱する恐れがあります。モーターが異常に加熱しますと、サーモスタット（モーター温度過昇保護装置）の働きでモーターが停止します。

3.その他のご注意

1.電源についてのお願い

⚠ 注 意

このコンプレッサーは、起動時や特に再起動時に定格電流の3～4倍の電流が流れるため、電源側にはそれに対応できる容量が必要です。
電力が不足すると以下のような症状が出ます。

- ウーンと唸ってモーターが回らない。
- ウーン～プスン～ウーン～プスンとモーターが鈍い回転で回る。
- リセットボタン（サーキットプロテクター）が飛び出る。
- 配電盤のブレーカーなどが落ちる。

このような症状が出たら！

STEP1） 15A以上のコンセントおよび20A以上のブレーカーを備えた電源をご使用ください。

STEP2） 配電盤のブレーカー1つに対してコンプレッサー単独でご使用ください。

STEP3） 配電盤のブレーカーから最も近いコンセントでご使用ください。

STEP4） 同じコンセントで他の電化製品を使用せず、コンプレッサー単独でご使用ください。

STEP5） 延長コードや延長ドラムを使わずに、直接コンセントへ接続してください。作業の都合で延長が必要な場合はエアホースを延長してください。ホース延長でも電圧と同じようにエア圧力は低下しますので（10mで約0.1MPa低下）コンプレッサの吐出圧力を上げてお使いください。

STEP6） タンク底部のドレンコックを開いたまま約10分間暖気運転をしてください。

STEP7） リセットボタン（サーキットプロテクター）が累積で5回以上作動している場合は交換してください。
※リセットボタンは、1度で溶解し交換が必要なヒューズと比べて数回の作動でしたら交換の必要はございませんが、配電盤のブレーカーのように耐久性があるものではございません。
頻繁に作動した場合は内部が劣化し作動しやすくなります。

※電力はあらゆる条件で変化します。配線の状態（劣化、種類、太さ、長さなど）や他の電気機器の使用状況をご確認ください。また、分電盤からの屋内配線についてご不明な点は電気工事士にご相談ください。

2.エア工具使用上のご注意

⚠ 注 意

■エアコンプレッサーの圧縮空気はほこりや水・油などを含んでいます。ご使用の際は十分に注意してください。できるだけ清潔な圧縮空気を供給する為にエアフィルター（空気清浄機）やエアドライヤなどを配管の途中に設置することをお勧めします。特にエアダスターをご使用の場合には十分注意してください。

■エア工具は付属の潤滑用エア工具オイルを適宜注油してください。注油を怠ると内部に発生するサビや汚れの堆積によりエア工具の故障や部品異常消耗の原因になります。

■その他、エア工具等の取扱説明書をよく読み、その指示に従ってください。

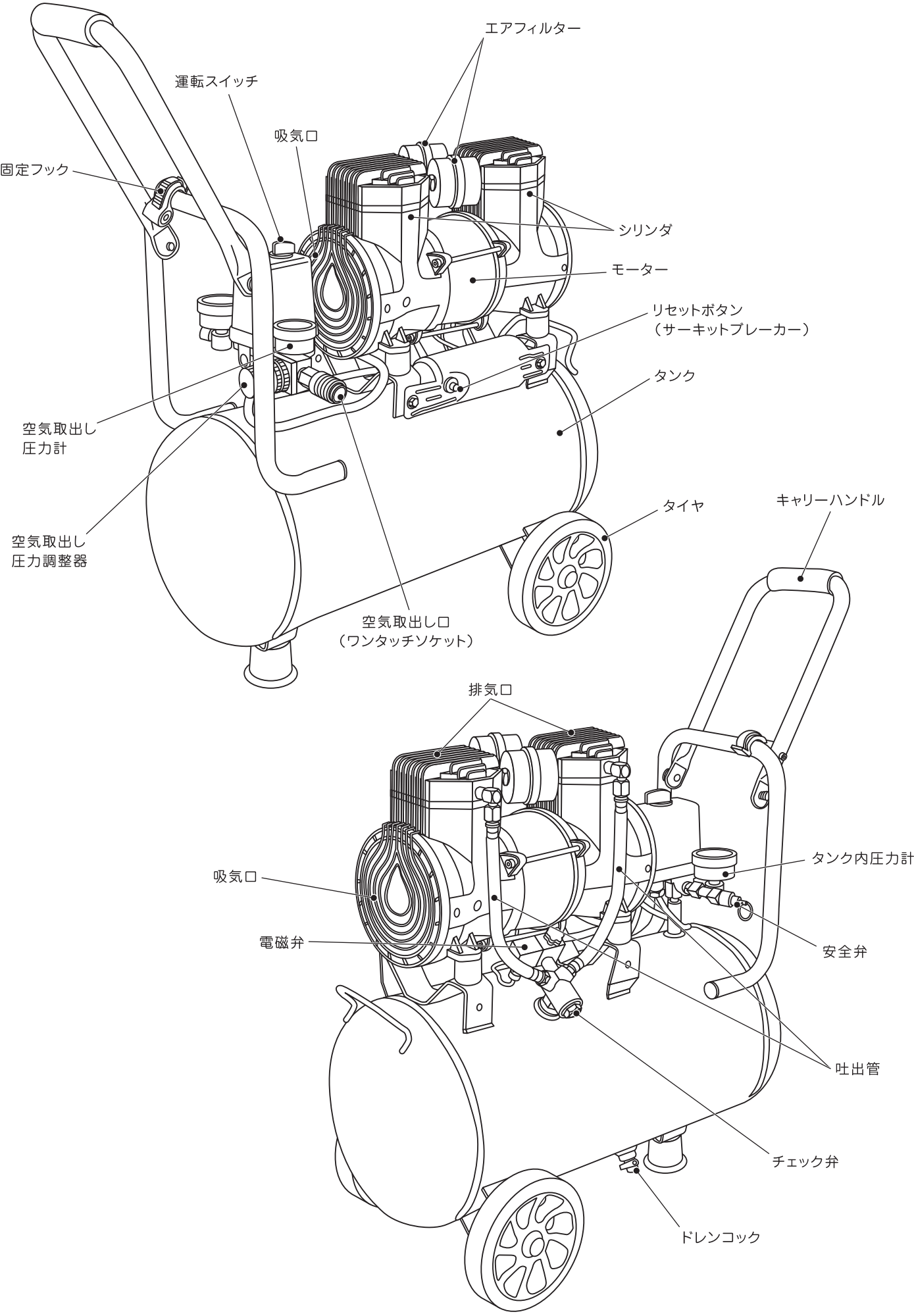
3.エア工具の選定について

コンプレッサーの吐出空気量よりもエア工具の空気消費量が多いと作業が順調にはできなくなります。下表を目安にエア工具を選定してください。
尚、この表は一応目安ですので、エア工具によってはこの表の通りにならないことがあります。

エア工具選定（目安）表			
（注：0.1MPa ≒1気圧≒1kgf／cm²）			
SK11 エアコンプレッサー		SW-202	備考
仕様	電動機のサイズ(kW)	1.5	
	最高圧力(MPa)	0.8	
	圧力制御範囲(MPa)	0.6-0.8	
	吐出空気量(50-60Hz) (L/min)大気圧換算値	90-100	0.6MPa時
	エアタンク容量(L)	35	
エア工具	エア連結釘打機	○	
	エア仕上釘打機	◎	
	エアタッカー	◎	
	エアダスター	○	
	タイヤ空気入れ	○	
	洗淨ガン・クリーナー	○	
	小型インパクトレンチ	○	
	中～大インパクトレンチ	△	
	エアブラシ	◎	
	スプレーガン	○	
	エアドリル(3/8")	○	
	エアドライバー(3/8")	○	
	エアディスクグラインダー(5")	×	
	エアベルトサンダー	×	

◎：連続使用 / ○：断続使用 / △：単発使用 / ×：使用困難

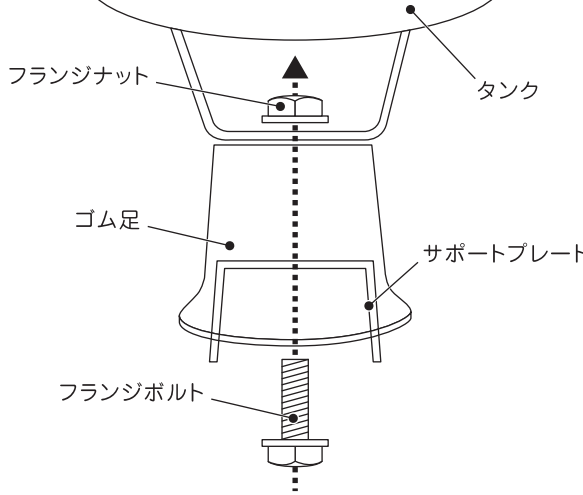
4. 各部のなまえ



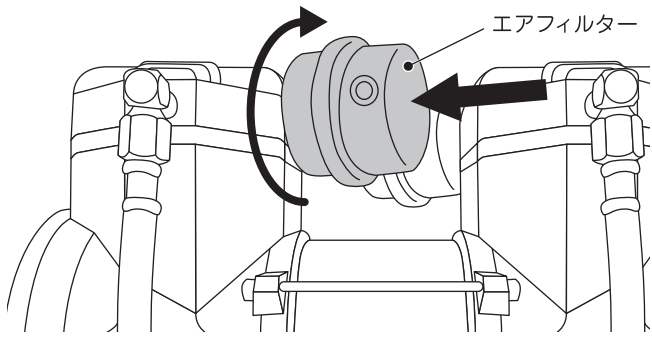
5. ご使用方法

1. 組み立て

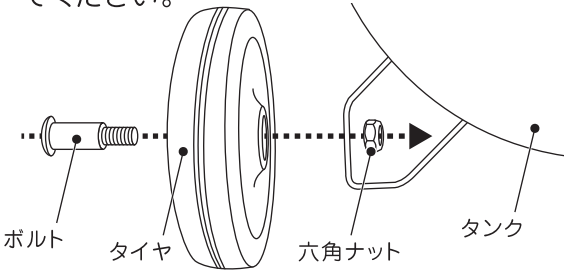
(1) 付属のフランジボルト、フランジナット、サポートプレートを使って、タンク底部前方にゴム足を取り付けてください。



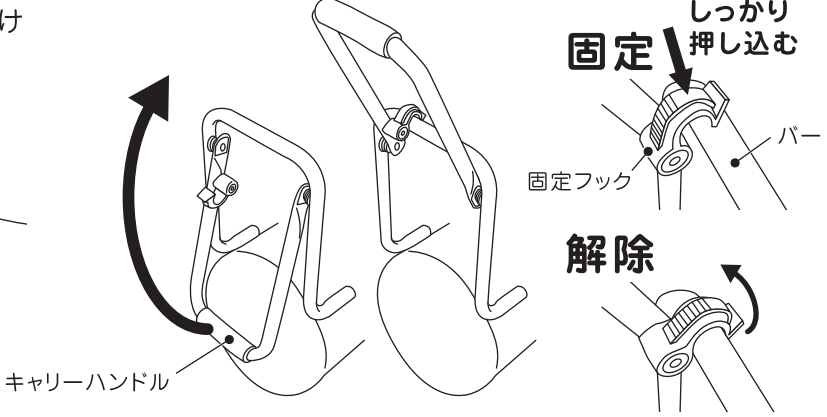
(2) シリンダ頭部の内側にあるネジ穴にエアフィルターをねじ込んで取り付けてください(時計回り)
※シリンダ、エアフィルターはそれぞれ2つありますので、両方取りつけてください。
※過度な力で締め付けられますとネジ山が破損しますので注意してください。



(3) 付属のボルト、ナットを使ってタンク底部後方の左右側面にタイヤを取り付けてください。
※ナットにはゆるみ止め加工が施してありますので、レンチ等工具を用いて締め付けてください。



(4) キャリーハンドルを下から引き起こして固定フックをバーに押し込んで固定してください。
※ハンドル収納時は、固定フック先端を引き起こしてフック固定を解除してください。



2. 運転前の日常点検・確認

警告

■点検・整備の際は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、エアタンク内の圧力を開放してください。
作動したり、接続したホースやエア工具が吹き飛ばされたりする恐れがあります。

- (1) 電源はAC100V(50Hzまたは60Hz)で15A以上のコンセントを単独でご使用ですか？
- (2) 延長コードを使用していますか？
ご使用の場合は、(再)起動時の電圧降下による(再)起動不良を抑えるため出来るだけ断面積(太さ)の大きいものをご使用ください。

目安

断面積	許容電流	長さ
2.0~3.5 mm ²	20A以上	20m

- (3) コードリールはコードを全部引きだしていますか？コードを巻いたままで使用すると電力不足となり、エアコンプレッサーが正常に作動しないことがあります。

- (4) 各部締め付け部が緩んでいませんか?緩んでいる場合は適正なトルクで締めつけてください。
- (5) 各部に亀裂や破損はございませんか?異常がある場合は修理に出してください。
- (6) 設置場所は平らでエアコンプレッサーは安定していますか?安定していないと使用時に移動したり倒れたりして故障や事故の原因になります。
- (7) エアタンク内に水がたまっていませんか?ドレンコックを開放して中の水や汚れを排出してください。
- (8) 電源コードの絶縁被覆が傷ついたり、溶けたりしていませんか?異常がある場合は修理に出してください。

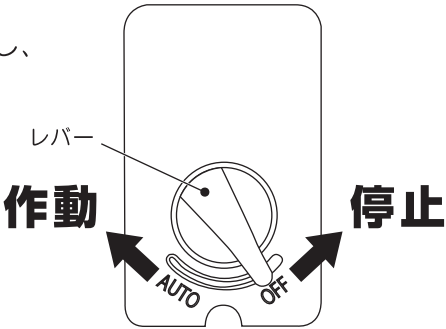
3. 運転

■リセットボタン(サーキットブレーカー)

元電源の電力不足などの原因でモーターに大きな電流が流れた際に作動して、過電流からモーターを保護します。リセットボタンが作動しましたら、スイッチを切り、少し時間をおいて飛び出したボタンを押し込んでください。主に電源事情が原因で作動しますので P3を参考のうえ電源事情を確認してください。

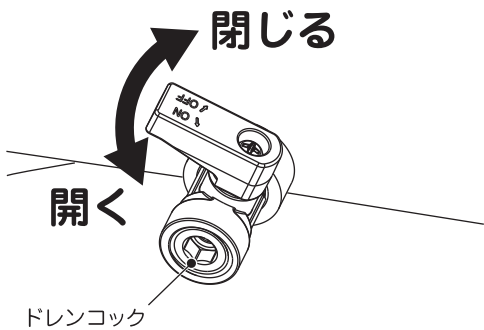
■運転スイッチ

レバーを“AUTO”側へ回すと作動し、“OFF”側へ回すと停止します。



■ドレンコック

本体背面側のタンク底にドレンコックがあります。レバーがたて向きの時は開き、よこ向きで閉じます。作業終了時には、ドレンコックを開いてタンク内のエアや水を排出してください。



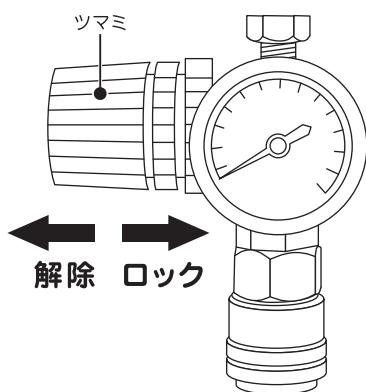
- (1) 運転スイッチをOFFにし、ドレンコックを開きます。
- (2) コンプレッサの電源プラグをコンセントに差し込み、運転スイッチをAUTOにするとモーターが始動します。
- (3) ドレンコックを閉じてタンクにエアを溜めます。

⚠ 注意

- コンセントの電力量が不足すると正常に回転しなかったり、モーター保護のためリセットボタンが飛び出してモーターが停止することがあります。この時は、十分な電力量のコンセントに変更してください。リセットボタンはモーターが冷えてから押し込んでください。
- コンセントを変更せずに、何回もリセットボタンを飛び出させると、リセットボタン(サーキットプロテクター)が故障することがあります。

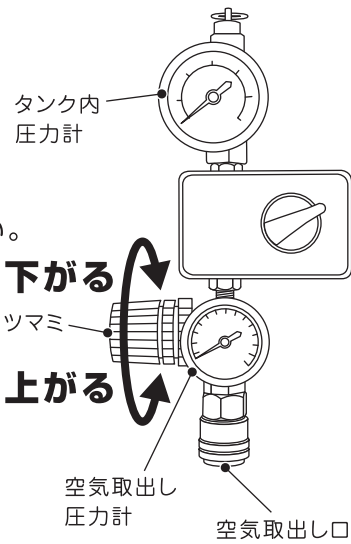
- (4) タンク内圧力が0.8MPaになると、圧力スイッチが働いてモーターが停止します。
- (5) 取出し圧力の調整を行います。(タンク内圧力より高くすることはできません。)

- 取り出し圧力調整器のツマミにはロック機能がついています。圧力調整のためにツマミを操作する際、固くて回すことができない場合は、ツマミがロック状態になっています。ツマミを引っ張りロックを解除してからツマミを操作してください。好みの圧力に調節できたら、ツマミを押してツマミをロックしてください。



- 空気取り出し圧力調整器のツマミを反時計回りに回すと取出し圧力が下がり、時計回りに回すと取出し圧力が上がります。
- 取出し圧力計を見ながら、使用するエア工具に適した圧力に調整します。
- 次の表を目安に、エア工具に合わせて調整してください。尚、この表は一応の目安ですので、実際に使用するエア工具の指定圧力に合わせてください。

用途・エア工具	調整圧力(MPa)
エアブラシ、自動車タイヤの空気入れ	0.2
塗料スプレー、薬剤スプレー、自動車タイヤの空気入れ	0.3
エアタスター、エンジンクリーナー	0.4
自転車タイヤの空気入れ、エンジンクリーナー、タッカー、仕上釘打機	0.5
インパクトレンチ、連続釘打機	0.6



- (6) 空気取出し口(ソケット)に接続するホースや配管等のプラグを押し込んで接続してください。 ※接続しにくい場合は、空気取出し圧力調整器で取り出し圧力を低くし、接続した後、元の圧力まで上げてください。
- (7) エアツール等で空気を消費してタンク内圧が0.8MPa以下になると圧力スイッチの働きによりモーターが始動し、0.8MPaになるとモーターが停止します。運転スイッチがAUTOの時は、このようにエアコンプレッサーは自動的にON/OFFを繰り返します。

⚠ 警告

- 運転中や停止直後は空気の圧縮熱のため、モーター、シリンダー、吐出管などは高温になっていますので注意してください。

- (8) コンプレッサーが連続運転しているのにタンク内圧力がエア工具に適した圧力以下に下がってしまう場合は、エア消費量がコンプレッサーの空気吐出量以上になっていますので、エア工具を能力の低いものに交換するか、使用する時間を短くして断続使用してください。

■安全弁について

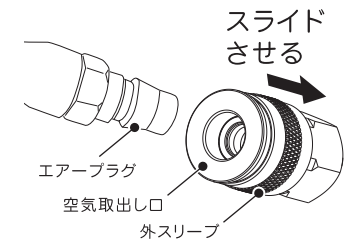
タンク内圧力計の側面にあります安全弁は、タンク内の圧力が最高圧力を超えた場合に自動的に作動し、圧力を開放します。安全弁はタンクの破損を防止するための保護装置ですので、調整や分解、改造等は行わないでください。

4. 停止

⚠ 警告

- 安全弁やドレンコックからエアを放出する際は、顔や身体を近づけないでください。
- エアホースを外す際は、ホース内圧の反動でホースが飛び跳ねることがあります。ホースをしっかりと保持してからホースの接続を解除してください。空気取出し圧力調整器で取出し圧力を低くしてから解除すると安全です。

- (1) 運転スイッチをOFFにしてください。
- (2) コンプレッサの電源プラグの成形部を持ってコンセントから引き抜きます。
- (3) エアタンクの下のだレンコックを開いて(つまみをたて向き)水・汚れとともにエアタンクの空気を抜いてください。
- (4) 空気取出し口からエアホースを取り外してください。(ソケットの外スリーブを奥にスライドさせると外れます)



⚠ 注意

- エアタンク内に溜まった凝縮水ドレンはその日のうちに抜いてください。水抜きを怠りますと、タンク内に蓄積されてタンクの容量が減少します。
- 運転スイッチ以外でコンプレッサーを停止させないでください。分電盤のスイッチや電源プラグの引き抜きなどで停止させると、次回正常に始動しないことがあります。

5.長期保管

- (1)長期間使用しない場合は、ドレンコックを開き(つまみをたて向き)にしてタンク内の水を抜きます。
- (2)ドレンコックを閉じて、コンプレッサー、エアタンクの外部をオイルのしみた布で清掃します。
- (3)ビニールカバーなどのホコリ除けを被せて、ホコリや湿気の少ない所に保管します。

6.保守・点検

⚠ 警 告

■点検・整備の際は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、エアタンクの圧力を開放してください。
モーターが急に回り出したり、外した部品が吹き飛ばされたりする恐れがあります。

◎空気吐出量の点検

- 最高圧力までの稼働時間が著しく長くなった場合は、部品の破損や消耗が原因の可能性があります。
- コンプレッサに接続しているホースや配管などを取り外して、コンプレッサ単体で作動させてください。
下記の稼働時間より1.5倍以上長くなっている場合は、お買い上げの販売店へ点検、修理を依頼してください。
起動開始(0.0MPa)→ 停止(0.8MPa)：約2～2分半
再起動(0.6MPa)→ 停止 (0.6 Mpa)：約30～40秒

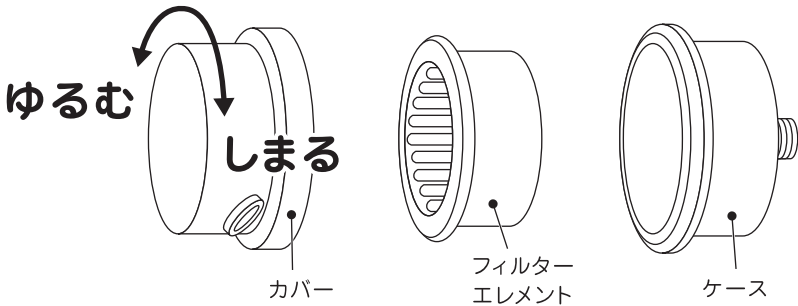
(原因)

1.エアフィルターの汚れ、目詰まり

- エアフィルターを取り外して再起動し稼働時間を確認してください。
稼働時間が正常範囲になるようであればフィルターを清掃してください。

(フィルター清掃)

- コンプライッサからエアフィルターを取り外して、カバーを取り外してください。
- 内部のフィルターエレメントをケースから取り外して清掃してください。
- フィルターエレメントをケースに戻し、カバーを取り付けてください。
- 汚れがひどい場合は、新しいフィルター(カバー+フィルターエレメント+ケース)と交換してください。



※注意:フィルターを取り外して使用し続けないでください。コンプレッサ内部に大気中のチリやホコリがコンプレッサ内部に侵入し故障するおそれがあります。

2.圧縮弁の破損

- お買い求めの販売店へ修理・点検を依頼してください。

3.ピストンやシリンダの摩耗

※本製品は、DIY・軽作業向けの短時間使用を前提に設計されています。適切な条件下で、ピストン、シリンダの寿命はおよそ500～700時間ですが、使用環境やメンテナンスにより大きく変動します。

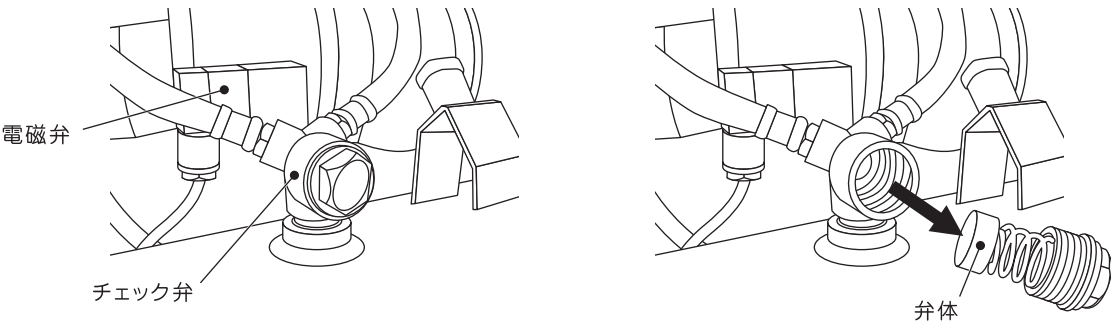
(寿命に影響する使用環境の例)

- 高温環境：夏場の屋外、直射日光下
- 低温環境での始動：冬季の屋外
- ドレン排出不足：内部の水や湿気
- サビの発生、ほこりが多い場所での使用：フィルタの詰まり
- 電源電圧が不安定な環境：延長コード使用
- タコ足配線

シリンダ、ピストンの摩耗や劣化が原因の場合、本体価格に対して修理費用が高額になる場合がありますので、故障内容によっては買い替えを推奨する場合があります。

◎電磁弁からのエアリーク

- 運転中や停止した際に電磁弁付近からエアリークする場合は、チェック弁に異物(タンク内で生じたサビで腐食し剥がれ落ちた金属片や滞留した汚れなど)が詰まっているおそれがあります。
- 異物のために内部の弁体がしっかりと閉じず、タンク内のエアが逆流し漏れ出します。



- 運転スイッチをOFFにし、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ドレンコックを開き、タンク内のエアを完全に抜いてください。
- チェック弁先端の六角ナット(17mm)を反時計回りに回して取り外し、チェック弁内部と弁体を清掃し、異物を取り除いてください。

7.故障かな?と思ったら

故障かな?と思ったら		(注:0.1MPa ≒1気圧≒1kgf／cm ²)
こんな症状	考えられる原因	解決方法
動かない。	電源プラグが外れている。	電源プラグをコンセントに接続してください。
	分電盤のブレーカーが落ちている。	ブレーカーが落ちた原因を取り除いてブレーカーを入れてください。
	運転スイッチがOFFになっている。	運転スイッチをAUTOにしてください。
	タンク内の圧力が再起動圧力以上ある。	そのままお使いください。
	リセットボタンが飛び出している。	リセットボタンが飛び出た原因を取り除いて、リセットボタンを押してください。
	運転スイッチ以外でコンプレッサーを停止させた。	運転スイッチを一旦OFFにしてから再びAUTOにしてください。
	モーター内のサーモスタットが作動した。	モーターが過熱しています。運転スイッチをOFFにして電源プラグを抜き、モーターを冷却してください。加熱した原因を取り除いてから、電源プラグをコンセントに接続し、運転スイッチをAUTOにしてください。
モーターが回り続けて止まらない、止まるまでに長い時間がかかる。	ドレンコックが開いたままになっている。	ドレンコックを閉じてください。
	安全弁からエアが漏れている。	安全弁のリングを引いてエアを少し放出してください。何度か試しても漏れる場合は安全弁を交換してください。
	ネジ接続箇所からエアが漏れている。	ネジ接続部を適正なトルクで増し締めまたは、シールしなおしてください。
	エアフィルターの目詰まり、汚れ。	エアフィルターを交換してください。
	コンプレッサに配管やホース、機器などを接続している。	接続した機器や配管にエアが流れるためタンクに溜まる時間が長くなります。また接続したホースや機器からのエア漏れしているおそれもあります。ホースや配管など一切の接続はせずコンプレッサ単体で確認してください。
	圧縮弁やピストン、シリンダの摩耗、破損。	P9 6.保守・点検をご確認ください。
モーターの回転が不安定、リセットボタンが飛び出る。	延長コードを使っている、延長コードが長過ぎるまたは細過ぎる。	延長コードを使わず、エアホースで延長してください。延長コードを芯線太さ2.0mm ² 以上で20mを最長としてできるだけ短い長さでお試しく下さい。
	同じコンセントやブレーカーで他の電気製品を同時に使っている。	コンセント、ブレーカーひとつに対してコンプレッサ単独で使ってください。
	コンセントから分電盤までの距離が遠い。	分電盤から一番近いコンセントでお試しく下さい。
	気温が低いためにコンプレッサの駆動機構が固くなりモーターへの負荷が大きくなっている。	ドレンコックをあけて約10分の暖気運転をしてください。他の項目の電源事情（延長コードやコンセントの共用など）も合わせて確認してください。
	一時的に家屋周辺全体の電圧が下がっている。	家屋周辺で大きな電気を使用する機器が使われている可能性があります。機器が止まるまで時間をおいてお使いください。
エアを使っていないのに勝手に動き出す。	タンク内の圧縮エアが冷えて体積が小さくなり、タンク内圧力が再起動圧力より下がった。	そのままお使いください。
	エアが漏れている。	ネジ接続部からのエア漏れを確認し、漏れがあれば、ネジ接続部を適正なトルクで増し締めまたは、シールしなおしてください。
		電磁弁付近からのエアー漏れは10ページ“電磁弁からのエアー漏れ”をご確認ください。

